

## 主張


# 教職員の育成

松尾 和彦

確かな学力の向上や生徒指導等の課題への対応に加え、時代の変化に伴う新たな教育課題への取組、地域との連携、様々な価値観をもつ保護者との対応など、学校教育を巡る課題は多様化・複雑化しています。また、近年、経験豊富な教員が大量退職し、若手教員が大量採用されています。

これらの状況に対し、学校においては、管理職がマネジメント能力を発揮し、教員一人一人の資質や組織的な課題解決能力の向上を図ることが求められます。そのためには、今まで以上に、より意図的・計画的な人材育成を行う体制を整える必要があります。平成二十四年八月の中央教育審議会答申においても、教職員の資質向上に係る課題の一つとして、「管理職の資質向上」が示されました。校長は、人的・物的資源を最大限に引き出し発揮させるマネジメント力を身に付け、人材育成を推進する責務を担っています。

各都道府県が示している教職員の資質向上に向けたプランを各学校で積極的に推進することこそが、「教育は人なり」の教育環境を築き、公立学校を充実させることにつながると思います。私も、「学び続けよう!!子どもたちの豊かな未来を切り拓くために」というスローガンを心に、宮崎県の「教職員の資質向上実行プラン」の実践に向け、「前に踏み



出す力・考え抜く力・チームで働く力」を大事に歩んでいる最中です。能力育成期から管理職までのライフステージで求められる資質・能力を明確にした上で、専門性向上のためのOJTの推進、教職員の組織マネジメントに関わる研修の体系化、教職員評価制度を活用した能力を発揮できる環境の整備・充実などに取り組んでいます。

こうして、意図的・計画的に推進する人材育成の基盤は、不断の営みにあることもまた忘れてはならないことです。教師に求められる「教職に対する強い情熱」「教育の専門家としての確かな力量」「総合的な人間力」を学び合い、刺激し合いながら成長していく同僚性が発揮できる環境づくりに努めたいものです。

宮崎県の「教職員の資質向上実行プラン」は、「教師の魅力。それは、子どもたちと共に学び、共に感動できること。子どもたちの学びに負けない、学び続ける強い気持ちを持ち続けたい。」の序文から始まります。子どもと共に学んだことや感動したことを分かち合える豊かなコミュニケーションのある学校文化を醸成したいと念じています。

ある年のフィードバックの際、一人の教師がこの一年間を振り返り、次のように述べました。「本年度、十数年ぶりに学級担任を任された。心の中では、不安だらけの中でスタートしたが、子どもたちが可愛く思え、よい意味での緊張感とやりがいのある毎日でした。忘れかけようとした情熱や指導方法の学びに火がつかしました。自分に自信が持て、残りの教師生活への展望ができた。」と。

学び続ける教師の軌跡は、とりもなおさず、人材育成の軌跡となっていくことを確信する日々です。

(全日中副会長・宮崎市立宮崎西中学校長)